

日本政策投資銀行南九州支店（平野俊明支店長）は、このほど、地域経済活性化の一策として期待されている観光産業の復興の目玉と目される「アジア・インバウンド」誘致に関するレポートを纏めました。「安・遠・短」が主流となりつつあるわが国の旅行形態の変化に加え、運輸省が推進する「ウエルカムプラン 21」等により、訪日外客（インバウンド）の獲得は、今や地域間競争の様相を呈してきています。こうした中、「九州ブーム」「鹿児島ブーム」と言われ、入込み客数も年間 10 万人を超えた平成 9 年以降鹿児島県へのインバウンド数は、大幅な減少傾向にあります。

「鹿児島ブーム」の復活のために、我々鹿児島県は何をすれば良いのか、を分析するため、12 年 7 月に当支店では、香港・シンガポール・台湾の三カ国を訪問、旅行先として「鹿児島」を選ぶために何が必要かのヒアリングを実施致しました。

本レポートは、こうした各国からのヒアリング結果に加え、「広域連携」が叫ばれて久しい宮崎、熊本といった隣県の誘致活動状況も含めて取り纏めたものであります。

<レポートのサマリー>

1. 南九州の観光の現状

九州 7 県の最近の観光統計の中での、鹿児島県の動き - 九州で最も苦戦している状況 - を分析するとともに、その理由が前出地域間競争と少なからず関連性があることを紹介。また、韓国、香港、台湾の三カ国が大口入込み先であることを紹介する。

2. 東南アジア三カ国訪問結果

当支店が行なった三カ国ヒアリング結果の要約を紹介している。

1) 香 港

低価格帯の「団体旅行者」が主流（ツアーの価格は 4 泊 5 日で 8 万円程度）。日本への送客は 6 社のエージェン트가寡占状態にあること。「鹿児島」の名前は交流会議等で知名度は高いが、実際の入込みにはつながっていない現状を記載。なお、香港中文大学を訪問し、地元学生とのディスカッションの様相も掲載。

2) シンガポール

「希望」と「現実の」違いを実感。日本に興味はあるものの、遠い 高い 言葉の問題の 3 点で実際の旅行者数は、年間 4 万人強（全体の 1.5%、香港の 10 分の 1）。鹿児島の知名度は低い。まずは、地道な広報活動から進めるべき。

3) 台 湾

親日感情が非常に強く、旅行者数も増加中（99 年ベースで年間 72 万人）。エージェンとも香港と違いエアライン系列で多数有。かつて九州はテーマパークブームもあり地理的メリットも手伝い大幅に入込みを増やしたが、一巡化と北海道・東北地区の精力的なプロモーションにより、大幅に入込みを減らす。

4) 三カ国からの共通のアドバイス

- ・CIQ 問題、土日の空港のクローズ
- ・高い旅行コスト
- ・「鹿児島」「宮崎」「熊本」単体では売れない
- ・若者の嗜好をつかめ

3. 南九州各県（鹿児島、宮崎、熊本）ヒアリング結果

受け入れ側となる南九州三県の誘致活動の現状につき、各県でのヒアリング結果を整理。

1) 宮崎県

- ・ トップセールスに代表される行政の強烈的リーダーシップとインセンティブの準備
- ・ 観光交流からビジネス交流への視点転換による入込み増を狙う
- ・ 安い航空会社の育成 - 新規参入会社への期待

2) 熊本県

- ・ 福岡との距離の近さを「味方」につける - 団体客のバスツアーには適度な福岡との距離
- ・ 南九州広域連携には積極的にはなれず - むしろ観光予算削減対策が関心事

3) 鹿児島県

- ・ 行政 - 民間の連携に工夫の要
- ・ マーケティング不足感
- ・ エージェントとのパイプを持ったホテルへの入込み増（鹿児島市内周辺健闘、指宿減）
- ・ 民間ベースでの連絡会の立ち上げ インバウンド誘致努力

4. 提 言

1 「広域連携」による観光振興を

「鹿児島」「宮崎」単独で別々のセールス活動は非効率かつ成果薄。空港国際線の利用方法を含め要検討。

2 ソフト面での整備重点化を

受け皿である都市の魅力アップのための仕掛け、案内板の整備

3 交通アクセス問題(高い、遠い)克服、機能向上のため権限の地方委譲を

「安いツアー」実現のための努力を（安い航空会社の誘致、県内企業間での連携等）、CIQの地方権限委譲。宮崎式インセンティブも費用対効果を把握すれば前向きに。

4 交流事業の増大; 受け入れ側にもホスピタリティの醸成を

市民参加型の交流事業の頻度を多く。札幌方式のホストファミリー育成策も重要。

5 広報、宣伝の効率化ー鹿児島にとって何が大事なのかー大きな方針決定を

鹿児島を何で売るのか、大きな方針決定。そのためのマーケティング立案。トップダウン方式の意思決定も大事。

6 人材の育成、外部専門家の登用を

観光産業育成のための人材育成。外からのアドバイスが聞ける体制に。

7 統計の精度、鮮度を

九州各県でも統計の取り方に相違。発表のタイミングも遅い。

8 アジア国民が楽しく住める街に

人の交流は観光のみでは太くならない。ビジネス面での交流があってこそ。

以 上